

令和5年度 NIE 実践報告

1, はじめに

本校は「自ら学び、共に高め合う子どもの育成～ICT,NIE を活用した言語活動の充実～」を研究主題として掲げている。本年度はNIE 実践校一年目として、まずは児童が新聞に親しむことを目標として取り組んだ。

2, 実践内容

○1年生の実践

生活科「ふゆとなかよし」

～新聞から秋田の冬を見つけよう～

生活科では、「あきみつけ」など、季節ごとに自然と触れ合う学習に取り組んできた。冬は新聞記事を使った実践をしてみようと事前に学校司書の協力のもと、新聞各紙から冬に関する写真が付いている記事を集めた。1年生は新聞に触れる機会が少ないので、新聞を渡すと珍しそうに興味を持って見ていた。付箋紙を渡し、「冬だなと思う写真があったら貼ってごらん」と促すと、どの子も意欲的に、新聞の中から写真を探し、付箋を貼ることを楽しんでいた。

次の時間には、たくさんの記事の中から自分の気に入った「冬を感じる写真」をタブレットで撮影し、タイトルを付けた。タイトルを付けることで、子どもたちがその写真から何を感じたか、よく伝わってきた。



冬を感じるお気に入りの写真を撮影する子どもたち

その後、全体場で紹介すると、友達の選んだ写真にも興味をもち、「新聞には色々なことが載っているんだね」と、新聞への興味関心を高めていた。

○2年生の実践

体育科「鉄棒を使った運動遊び」

秋田魁新報「こども新聞」(2024年2月11日付け)を活用し、逆上がりの技に挑戦した。逆上がりの技を習得している子どもを手本として、担任が記事文をゆっくり読み上げ、子どもの動きと対応できるようにした。記事文は、励みになるような文体のため、子どもたちは意欲的に聞いていた。

「構え」「腕」「足」の視点で、要点を分かりやすく示されているため、子どもたちはそれらを合い言葉にしながら練習に取り組んでいた。また、「補助」についての記事文も掲載されていたため、教師がどのように支援していけばよいかを知り、実践することができた。

記事文で動きの要点を学んだ後、QRコードを読み取り、学級全員で実技の動画を視聴する時間を設けた。記事文の内容と対応しているため、「新聞にも書いてあったことだね」「腕を曲げたらうまく回れるんだ」などつぶやきながら、熱心に見ていた。必要に応じて繰り返し見られることは、インターネット動画を取り入れるよさである。

振り返りの文からは、「利き足を後ろにして構えることができた」「腕を曲げることに気を付けた」「足を天井に向かって出すことができた」など詳しく書いているものが多くあった。体の動きについて詳細に記述されていたため、「できた」「できなかった」だけでなく、自分が挑戦できた動きについて振り返り、達成感を味わいながら学習を終えることができたようだ。



教室に掲示された新聞記事に注目する子ども



動画で逆上がりのお手本を確認している様子

○3年生の実践

国語科「仕事のくふう、見つけたよ」

校外学習で見学した、「卸売市場・消防署・警察署」の中から一つ選び、新聞の形式で紙に書いてまとめる活動を行った。その際、実際の新聞を見ながら、見出しや記事に書く内容や、写真や絵が読者にとって見やすくなることを確認した。

国語科「ポスターを読もう」

読者を引きつけるように工夫されたキャッチコピーを新聞広告の中から見つけ、ノートにまとめる学習を行った。短い言葉で表現しているものが多く、表現の仕方にも様々な工夫がされていたので、子どもたちも意欲的に探すことができた。

総合的な学習の時間

「千秋公園について調べよう」

調べたことを新聞の形式でまとめる学習を行った。タブレットを用いて、コラボノートに新聞の形式を作成し、興味がある内容を新聞記事のようにまとめていった。写真を貼ったり、見出しの文章を付箋で貼り付けたりして、学習が深まった。



千秋花火についての新聞

○4年生の実践

国語科「新聞を作ろう」

本単元では、新聞を使って特徴を確かめる活動を行った。教科書の例と地方紙を実際に比べながら、「新聞名」、「発行日」、「発行者」が1面の右上に書かれていること、記事には見出しが付いていること、写真・絵・図・表などと組み合わせて記事をより分かりやすくしていることなどを学んだ。

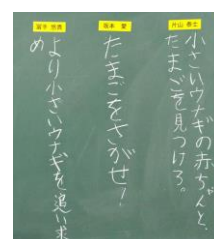
国語科「ウナギのなぞを追って」

「きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう」という単元のめあてで学習を進めた。内容のまとまりに小見出しを付ける学習では、効果的な小見出しの例として、新聞記事の見出しを取り上げた。「大谷2戦連発ならず」「盲導犬の役割学ぶ」などの要点を捉えた見出しの例を提示することで、内容の中心を表すように、読み手の興味を引くような小見出しが付けられていることを確認することができた。さらに、それを参考にして、本文中の内容のまとまりに小見出しを付けることができた。

また、同単元では、興味をもったことを中心に文章全体を読み、要約する学習活動を行った。その際に、以前、自分たちが実際に新聞に取り上げられた記事の書き方を基に学習した。自分たちが受けた2時間の授業が、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「なぜ」「どのように」にあたる要素を取り上げて書くことで、大体のことがよく分かる短くまとめた要約文になることを深く学ぶことができた。



グループで作成した
学級新聞



子どもたちが考えた
小見出し

○5年生の実践

社会科

「情報産業とわたしたちの暮らし」

本単元では、放送局等の情報産業で働く人々について、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり、映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりしてまとめることで放送などの情報産業の様子をとらえた。また、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、情報産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにした。このことにより、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに情報の受け手として正しく判断することや、送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとする態度を養うことをねらいとして授業を進めた。

研究授業では、子どもたちの関心が高い2023年7月に発生した「秋田大雨災害」を事例として取り扱った。その際、大雨災害の被害を学ぶために、新聞記事を学級掲示として活用した。子どもたちは、新聞記事を通して、大雨による被害状況をつかむことができた。



秋田大雨災害をテーマとした切り抜き

○6年生の実践

社会科「震災復興の願いを実現する政治」

日本海中部地震発生から40年目の5月26日の朝刊を活用して学習を進めた。まずは、特集記事をじっくり読むことから始めた。記事を掲示し、続いて東日本大震災から復興していく気仙沼の様子について学習した。東日本大震災を知らない子どもたちは、秋田県内でも大きな地震を経験したことを実感させ、災害から復興していく人々の様子や願いについて考えた。



授業当日の新聞記事を
拡大して提示



記事から読み取ったこと
をもとに話し合いをする

社会科

「長く続いた 戦争と人々の暮らし」

秋田魁新報社が日曜日に発行している「さきがけこども新聞」の「土崎空襲」の記事から、自分たちが住む秋田市内でも戦争によって多数の死者が出たことを学んだ。新聞記事をPDFにし、電子黒板に映し、記事や写真を拡大して提示した。当時を知る人のインタビュー記事や、今も残る首なし地蔵や慰霊の碑の様子などを読み取り空襲の様子を知ることによって、戦争は自分たちとは無縁なものではないことを実感した。デジタル教科書の映像資料と新聞記事を有効に活用することで子どもたちの学びが深まる取組になった。



新聞記事や子どもの気
付きをまとめた板書



電子版の記事を提示



実際の紙面も紹介



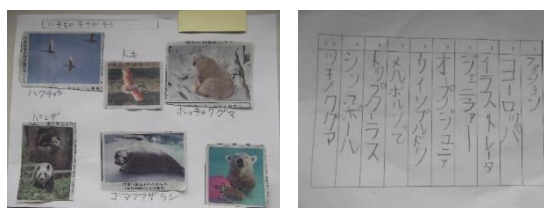
注目してほしい部分を拡大

○特別支援学級（ひまわり組）の実践 自立活動「〇〇をさがそう」

新聞に興味をもつことができるように、テーマに沿った写真探しの活動を、主に低学年の児童を対象として行った。テーマは動物、植物、季節を感じられるものや、スポーツ選手などである。授業では、テーマを選択肢から選んだり、その時の季節や行事に合わせて話し合ったりしながら決めた。新聞記事は、子どもが意欲を保って活動できるように、テーマに関するものが載っている紙面を教師が事前に選択した。子どもは、写真探しに喜んで取り組み、写真をシートに貼り、物の名前や気付いたことなどを書き込んだ。この活動を通して、新聞を自ら読もうとするようになっていった。

プロバスケットボールチームの秋田ノーザンハピネッツの選手をゲストティーチャーとして招いたときは、ハピネッツについての記事を探そうと、子どもの方から教師へ提案があり、取組の定着、活動への意欲の高まりが感じられた。

また、新聞の文字に親しむことをねらいとして文字探しの活動を行った。「カタカナの言葉探し」、「学習した漢字探し」などでは、見つけた言葉をチェックし、10個書くことができるシートに書いていった。低学年児童には、文字の大きさに抵抗なく取り組めるよう、拡大コピーをした新聞も用意し、選んで使うことができるようにした。早くシートをいっぱいにしようと意欲的に取り組み、様々な言葉を見付けることができた。



子どもが切り抜いた写真と見付けた言葉

○特別支援学級（桃組）の実践 生活単元学習

「いろいろな動きにチャレンジ」

秋田魁新報「目指せ日本一 あきた健康寿命」を活用した。取り上げた理由としては、以下の通りである。

- ・写真の割合が多く、文字が少ない。
- ・番号毎に区切られていて、見やすい。
- ・同じ人物がモデルになっているが、写真から違う動きをしていると分かる。
- ・QRコードで動画を見ることができる。
- ・毎月一度、特集が組まれていて、マンスリーで変化させていくことができる。

授業では、「何をしている写真ですか」と問うと、遠くから離れていても誰かが運動している写真だと気が付いた。「何番に挑戦したいですか」と聞くと、2年生は写真から、5、6年生は見出しの文から決めた。

「詳しく読んで！」の動きの説明については、担任が説明を読み、みんなで交互に数えて一通り運動した。

様々な身体の動きはもちろん、書かれている動作を理解し、自分でその通りに挑戦してみることで、明記されている数をこなすこと、リズムカルにトントンとマッサージするように等、文字上の表現を読み取って実際に動作化すること、身体の部位と名前のマッチング、継続することによって筋肉が増えていくかもしれない楽しみ・・・等算数的な内容、国語的な内容、体育と合科的な指導が可能となった。これからも継続しながら、新しい運動に挑戦していきたいと考えている。

○児童委員会（図書委員会）の実践 「新聞きりぬき体験をしよう」

全校の新聞きりぬき体験担当の図書委員が、企画を実施する際、スムーズに進めることができるように、事前に、自分達が段階を追って、切り抜き体験をした。

第一段階の図書委員が選んだテーマは「動物」と「植物」で、慎重に記事を選びながら、「記事探し→記事の囲み→切り抜き→貼り付け」を進めた。初めての体験だったこともあり、1つのテーマで1つの記事を探し、貼り付ける台紙はB4を1枚とした。興味をもちながら、比較的スムーズに進めることができていた。一連の作業が終わると笑顔で満足した表情を浮かべていた。「かわいい動物が好きだからみんなにも見てほしかった」「ハーブについて詳しく知りたかったので、新しく知れてよかったと」テーマを選んだ理由について述べていた。

第二段階として、担当2人で1枚の切り抜き体験に取り組んだ。テーマは「生き物」。生き物と聞いたとき、図書委員の2人は、動物のイメージしかもてなかったようだが、植物や魚、昆虫等も生き物の仲間であることを伝えと、広い視点からそれぞれ記事を選び、切り抜き、見せるための構成を考えながら貼り付けた。貼り付けた台紙の大きさは模造紙半分とし、第一段階よりも大きなものを使用した。切り抜いた記事も複数になった。図書委員は、一連の作業が楽しかったし、新しいことが知れてよかったとのことだった。貼る際に関係あるものをまとめたり、目立たせたいものを上に貼ったりすなどして工夫したとのことであった。

いよいよ迎えた当日。切り抜き体験に参加したのは、3年生と4年生のグループ3組だった。残念ながら、3年生のグループ

は、休み時間という限られた時間内に完成させられず頓挫してしまったが、4年生のグループは、休み時間に何回か足を運び、しっかりと切り抜きを完成させることができた。記事を見付けたり、切り抜いたりと意欲的に取り組む姿が見られた。

実施にあたり、使用する道具（ハサミ、糊、定規、筆記用具）とスペース（新聞を広げて探したり、記事を囲んだり、切ったりできるスペース）を事前に確保してから取り組むことが望ましいと感じた。なお、はじめに図書委員が新聞切り抜きの作り方の手順を説明し、注意点を加え、最後に自分たちで作ったサンプルを提示したので、参加した子どもたちは分かりやすかったようだ。比較的スムーズに作業している姿が見られた。

ただ、この日は他のイベントも並行して行われていたため、煩雑さの中で作業しなければならず、静寂な環境が望ましかった。

ゆったり作業できるスペースが確保されることで、より作業しやすかったと思われる実際に行ってみて、初めて気が付くことも多かった。



2人で協力して作成した切り抜き



読書まつりで参加者が作った切り抜き

○学校司書を中心とした環境整備 〔新聞コーナーの設置、活用〕

たくさん子どもたちの目に留まるようにと、児童玄関前に新聞コーナーを設置し、季節や子どもたちの興味関心に合わせた記事の掲示や本の展示を行った。また、図書室前の廊下にも新聞掲示コーナーを整えることで、スポーツ関連の記事などを子どもたちが足を止め、見て楽しむことができた。



今日の新聞コーナー



R6. I
能登半島地震についてのコーナー



防災関係の本なども展示

〔記事の収集〕

1年生の冬に関する記事集めの他、5・6年生の国語や理科の調べ学習の際など、多くの場面で関連記事の収集を行った。豪雨災害や、新聞読み比べ（5年生「甲子園」）など、掲示用の模造紙づくりも行った。

○学校ホームページのNIEコーナーの活用

今年度より、学校ホームページにNIEの取組を紹介するコーナーを設けた。NIEの取組や図書館について、各学年の学習の様子などを紹介した。



3. 成果と課題

今年度は、NIE 実践指定校1年目ということで、子どもたちが新聞と親しむきっかけを多く作ることを第一に実践を重ねた。どの学年でも、発達の段階に合わせて、多様な手法で取り組むことができた。学校ホームページにNIEコーナーを設け、情報発信に努めた。また、学校司書によって子どもたちが新聞に親しめるような環境や読み聞かせの時間が大変充実している。加えてICT支援員には、新聞資料などのPDF化などを依頼し、どの子どもも、どの教師も有効活用できるようにしてきている。

来年度は、各学年の学習内容に応じて、新聞を効果的に取り入れられるよう、系統性を意識した計画のもと実践を重ねていきたい。

その際、職員同士の連携を図りながら、全校一丸となって、一層のNIEを推進を目指したい。プロの新聞記者の方々による講話などにより、読み手を意識した構成の仕方や見出しの立て方などについても学ぶ一年にしていきたい。